

第2回湧別川河川整備計画検討会 議事要旨

日時：平成22年5月26日(水) 13:00～15:00

場所：遠軽町保健福祉総合センター げんき21

事務局より前回の補足説明及び「湧別川水系河川整備計画における目標と整備内容について」の説明を行い、以下のような検討が行われた。

■ 「湧別川流域の特徴と課題について」の補足説明について

委員) ほ乳類の生息状況について、シカ等の大型ほ乳類についても追記すると良い。

委員) 川の道構想を踏まえた、河川利用が行われていることは良いが、川そのものへの関心を地域住民に広げることも大切。

委員) 本日の現地調査で渚滑川同様に湧別川でもケショウヤナギが確認された。今後の河川整備にあたっては配慮が必要。

委員) 環境省の情報等を参考に、流域の植生状況について整理すると良い。

■ 湧別川水系河川整備計画における目標と整備内容について

委員) 平水位以上の高さで掘削を行うと、水位の増減によって土砂流出が生じないか。

事務局) 工事直後は細かい土砂が流出することはあるが、時間の経過と共に場所なりの粒径になると考えられる。

委員) ヤナギの種子は6月中旬から下旬にかけて散布されるため、その頃に河床が水面から露出しているとヤナギは一気に生育するので注意が必要。

委員) 掘削予定区間にはヤチダモはほとんど確認されず、ドロノキ、ハルニレが多く確認されたので資料を修正すること。

委員) 河道掘削箇所は生田原川の合流点箇所であり、その影響を受けていることも考えられるので、工事を行う前には土質を確認しておくこと。

委員) 水防拠点の場所は具体的には決まっているのか。

事務局) 現時点で具体的な場所は決まっていない。今後検討していきたい。

委員) オオワシ・オジロワシは特に12月～3月の下流の中洲を採餌場として利用している。今後、この中洲を残すことができるのか。

事務局) 下流部では浸食対策を行う可能性はあるが大規模に河道を改変することは考えていないため、この中洲を含め現在の河川形態は保持され则认为している。

委員) 堤防の安全性確保の実施区間の設定にあたっては、流速2m/s以上、無次元掃流力0.07以上を目安としているとのことだが、湧別川の実際の被災箇所の数値を踏まえると無次元掃流力が0.10以上の区間を対象とすると良い。また、護岸の端部は浸食される場合が多いことから、実施区間は連続して設定したほうが良い。

事務局) ご意見を踏まえ、実施区間について検討したい。

委員) 湧別川で想定している高速流対策の工法については、妥当と思われる。

委員) 魚道について、魚の遡上状況のモニタリングも重要なので、調査を実施してほしい。

委員) 湧別川のような網状河川では、滞筋が変化し水位観測に影響を及ぼす場合があるので注意が必要である。

委員) 河道掘削区間に貴重な樹木がある場合、移植するべきなので十分な調査を実施してほしい。

委員) 河道掘削について、右岸側を掘削する理由について次回説明していただきたい。

委員) 地域防災リーダーを育てることは有効であるが、そのリーダーが得た知識を地域住民に還元できる体制を整えることが重要。

委員) 順応的管理を行うためには定期的なモニタリングが重要である。次回はモニタリングの実施内容についても説明していただきたい。

委員) 湧別川の樹木について、どのような管理を考えているのか。

事務局) 湧別川では概ね流下能力が確保されているので、その状況を踏まえ、今後樹木の繁茂等により流下能力が阻害されないよう適切に管理していきたい。

委員) 間引きについて、同じ種の樹木を残すよりも色々な種を残したほうが良いと思われる。また、大木だけではなく低木等も残すことで多様性が保全されるのではないか。

委員) 樹木が阻害となるときには、枝打ちより間引きの方が良い。色々な樹木を残すよりも、管理が可能な木をしっかりと管理していくべきではないか。

委員) 次回の検討会では、事務局から今回の質問に対する補足説明と、河川整備計画(原案)について提示していただき、その内容について議論していきたい。

以 上